



2025年版（第一版）

（期間 2024年4月～2025年3月）

2025年8月1日発行

# 環境経営レポート



社会と化学のコーディネーター

## ソーダニッカ株式会社

本社:東京 支社:関西

支店:北海道 仙台 静岡 名古屋 広島 四国 福岡

グループ会社:ソーダニッカビジネスサポート株式会社

## 目 次

1. ご挨拶	1
2. 会社概要	2
3. 環境管理組織	3
4. 環境経営方針	4
5. 2024年度 環境経営目標達成状況	
(1) 環境経営目標及び環境負荷の実績	5
(2) 環境経営目標達成状況及び今後の対応	6
6. 中期環境経営目標	7
7. 2024年度の環境活動及び過去の実績	
(1) 主な環境負荷への取組結果	8
(2) 二酸化炭素排出量削減への取組み	12
・広島・大野ケミカルセンターにおける太陽光発電設備の利用	
(3) 化学物質の管理	13
① ケミカルセンター(物流基地)取扱の化学物質	
② ケミカルセンターの防災訓練	
(4) 環境貢献活動(営業部門他)	16
① 健康保険組合連合会東京連合会より、健康優良企業の証として「銀の認定」を取得	
② 株式会社TBMと当社の連携により、カネヨ石鹼株式会社のクレンザー「カネヨン」の製品ボトルにLIMEX Pelletが採用	
③ 「将来の化学産業を担う人材育成のきっかけづくりをする」をコンセプトとした化学工業日報社による子ども向け化学サイト「きみラボ」に協賛	
④ スタジアムで排出されるゴミの100%リサイクルを目指し、FC大阪様と協働プロジェクトを開始	
⑤ ザスパ群馬様との取組みが「2023 Japan Sports Activation Awards」においてSDGs賞を受賞しました。	
(5) 社会貢献活動への取組み	22
(6) 地域の環境保全活動	23
(7) その他の環境活動 (eco検定®の受検)	25
8. 2025年度 環境経営目標	26
9. 環境関連法規等の遵守状況 (過去3年)	28
10. 代表者による全体の評価と見直し (2023年度)	29
11. エコアクション21の取組みのあゆみ	29
12. 表紙の写真について	30

## 1. ご挨拶

ソーダニッカ株式会社は、1947年の創立以来、ソーダ製品をはじめとした無機・有機薬品、石油化学製品、合成樹脂製品などを取扱う化学品専門商社として長年にわたり国内産業界の発展に貢献して参りました。全国をカバーするネットワークの構築により、お取引先様から厚い信頼をいただく一方、苛性ソーダ等の主力商品の安定供給をより確かなものにする為に全国4ヶ所にケミカルセンターを設けております。



化学産業は我が国の競争力を支える活力ある産業であり、当社はその一翼を担うべく、基礎原料から、時代のニーズに対応する高付加価値の機能製品まで幅広い商品を取扱っております。常に最新の情報を先取りし、積極的な提案や商品・サービスを提供することが当社に課せられた使命だと受けとめております。

また、当社は2023年度より長期ビジョンを再設定し、豊かで持続可能な社会を実現する為、「社会と化学のコーディネーター」として、取引先・地域社会とともに社会課題を解決することを最重要テーマといたしました。2019年度より取り組みを開始したSDGs（持続可能な開発目標）\*1) はもとより、脱炭素社会への移行という大きな社会的課題を解決する為、国内グループ会社のCO<sub>2</sub>排出量の削減に積極的に取り組んで参ります。環境に対する社会的ニーズをいち早くキャッチし、環境負荷削減に資する商品やサービスなどを提供し、また環境貢献活動を積極的に推進していくことで、あらゆるステークホルダーの信頼と期待に応えていく方針です。

代表取締役 社長執行役員 目崎龍二



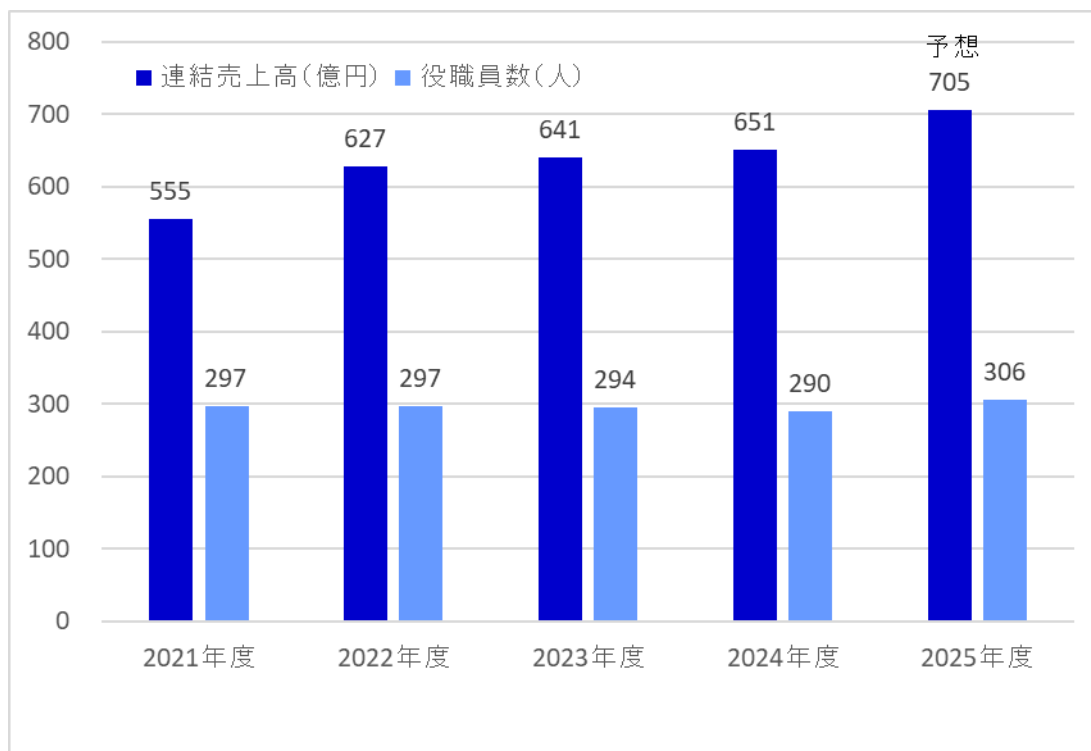
\*1) SDGsとは

SDGsとは、「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals)」の略称で、2015年9月に、国連で「持続可能な開発のための2030アジェンダ」として採択されたものです。SDGsは「誰ひとり置き去りにしない」という理念のもと、持続可能な社会を実現するための、先進国を含む国際社会全体の2030年に向けた環境・経済・社会についての17の目標(ゴール)と指針(ターゲット)です。

## 2. 会社概要

会社名 : ソーダニッカ株式会社  
ホームページ : <https://www.sodanikka.co.jp/>  
本社所在地 : 東京都中央区日本橋 3-6-2 日本橋フロント 5F  
連絡先 : TEL (代):03-3245-1802 FAX: 03-3245-1888  
創立年月日 : 1947年4月1日  
代表者 : 代表取締役 社長執行役員 目崎 龍二  
資本金 : 37億6,250万円 (2025年4月1日現在)  
売上高 : 651億46百万円 (2024年度・連結)  
主な事業内容 : 化学工業薬品・石油化学製品・合成樹脂及び加工製品・電子材料・燃料・各種機器容器等の売買業及び貿易業、化学工業設備・同機器の設計製作及び施工請負、建築・土木工事請負  
主力化学品については、国内4ヶ所に物流拠点としてケミカルセンターを有し、輸送の合理化及び取引先への安定供給を目的に、サプライチェーン・ネットワークを構築。  
環境責任者 : ソーダニッカビジネスサポート株式会社 代表取締役社長 細谷 巖  
環境担当者 : ソーダニッカ株式会社 営業支援グループ マネージャー 井澤 靖博

事業規模(連結売上高、エコアクション 21 に係る役職員数の推移)



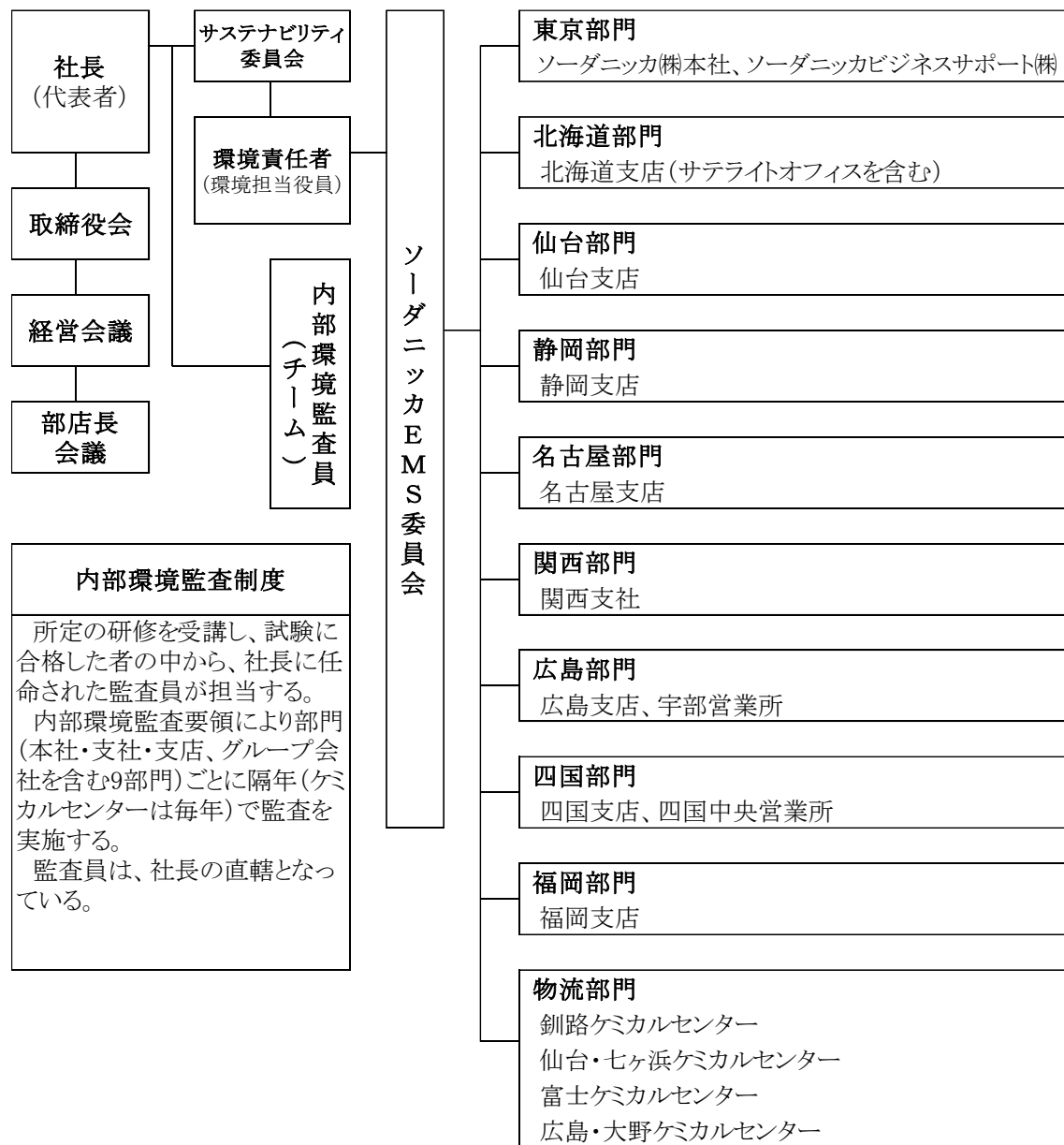
注 1) 2021年度以降 売上高、予想値について

2021年度(2022年3月期)より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日)等を適用しております。

2) 役職員数(4/1現在)はソーダニッカビジネスサポート(株)の人員を含む。

### 3. 環境管理組織

(2025年4月1日現在)



## 4. 環境経営方針

### 企業理念に基づく環境経営基本方針

ソーダニッカは、化学品専門商社として日本の基礎産業である化学工業に携わっており、化学工業薬品、合成樹脂原料・製品、産業用機器類の販売を行っている。また、主力薬品については、安定供給を目的として保管業務も行っている。

これらの事業をグローバルに展開する企業として、企業理念に掲げる『信用を第一』に『社会に貢献する』企業であり続けるために、地球環境保全への取組みをソーダニッカにおける最重要課題の一つとして位置づける。

### 環境経営方針

ソーダニッカ株式会社は、企業経営を通じて地球環境へ配慮していくことを目的に、以下のことを実施していきます。

#### 1. 事業活動を通じた地球環境保全への取組み

企業経営において環境負荷の低減に積極的かつ継続的に取り組んでいくために、自ら定めた目標に向かって全社員が自主的に行動する。また、営業活動においては環境負荷の少ない商品・技術・サービスを社会に提供するとともに、ケミカルセンターにおいては安全管理と環境保全に努めていきます。

#### 2. CO<sub>2</sub> 排出量削減への取組み

脱炭素社会への移行という社会的課題を解決するため、国内グループ会社におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減に積極的に取り組みます。

#### 3. 資源・エネルギーの効率的利用

資源・エネルギーの消費や廃棄物の排出状況等をチェックし、環境への負荷を常に認識し、Reduce(廃棄物削減)、Reuse(再使用)、Recycle(再利用)、新エネルギー等の活用、グリーン購入に取り組みます。

#### 4. 環境関連法規の遵守

関連する環境法規制・基準及びその他の同意する要求事項を遵守します。

#### 5. 継続的環境改善への取組み及び地域社会との共生

環境保全に関する目標を設定し、取組み結果を見直すなど継続的な環境改善に取り組むとともに、地域社会との共生を実践するために社会貢献活動に積極的に参加していきます。

#### 6. 環境活動の定着と環境情報の公表

全従業員に対して、この環境経営方針の周知徹底を図るとともに、環境教育を計画的に行い、環境保全活動の定着、向上に努めます。また、環境経営計画及びその実施状況並びに環境関連情報については『環境経営レポート』に取りまとめて公表します。

更新履歴	2005年4月1日	制定
	2008年4月1日	更新
	2011年4月1日	更新
	2012年5月2日	更新
	2019年4月1日	更新
	2023年4月1日	更新

2023年4月1日

ソーダニッカ株式会社

代表取締役 社長執行役員

目崎龍二

## 5. 2024 年度 環境経営目標達成状況

### (1) 環境経営目標及び環境負荷の実績

取組み項目	単位	基準	2024年度			
		2023年度実績	年度目標	対基準増減率	実績	対目標増減率
1. 二酸化炭素排出量の削減	kg-CO <sub>2</sub>	195,240	194,588	-0.33%	181,882	-6.53%
1. 1 電力使用量の削減	kWh	606,487	604,461	-0.33%	558,114	-7.67%
1. 2 ガソリン、軽油使用量の削減	ℓ	16,948	16,891	-0.33%	12,888	-23.70%
2. コピー用紙使用量の削減	kg	3,720	3,708	-0.33%	3,425	-7.63%
3. 廃棄物排出量の削減 (事業系一般:紙+プラスチック)	kg	8,606	8,606	+0.00%	6,778	-21.24%
4. ケミカルセンター水道使用量の削減 (製造用水以外)	m <sup>3</sup>	889	889	+0.00%	873	-1.80%
5. ケミカルセンター排水量の把握	m <sup>3</sup>	178			170	
6. グリーン購入の拡大	グリーン調達ガイドラインに則り、印刷物、事務用箋、封筒、名刺などは環境配慮型製品を積極的に使用する。					
7. 化学物質の管理	1) 社内規程に則った作業手順、保守管理基準、防災マニュアルにより、安全と環境保全に努め、ケミカルセンターにおける災害発生を未然に防止する。 2) PRTR法のSDS制度 対象化学物質(第一種、第二種指定化学物質)の年間販売量の把握に努める。					
8. 営業部門の環境貢献活動	1) 3Rの推進、新エネルギー等の活用を積極的に提案する。 2) 環境配慮型の製品・技術の開発・普及に努める。 3) 取組み内容を環境経営レポートにて公表する。					
9. 地域の環境保全活動	環境保全に係るボランティア活動等に参加し、地域社会との共生を推進する。					
10. その他の環境活動	環境啓蒙活動の一環でeco検定®の受験を推奨する。					
電気事業者別 調整後排出係数 2024年(2023年度実績値)  kg-CO <sub>2</sub> /kWh	北海道電力	0.535	東北電力	0.402	東京電力 エナジーパートナー	0.431
	中部電力	0.421	関西電力	0.419	中国電力	0.520
	四国電力	0.464	九州電力	0.417	㈱リエネ/㈱エナリス	0.000

注 1) 電気事業者別 調整後排出係数(環境省・経済産業書公表)は 2024 年度(2023 年度実績値)、2023 年度(2022 年度実績値)を使用しています。

注 2) 廃棄物排出量(紙、プラスチック)は当社で計量可能な紙類、プラスチックの排出数量及び産業廃棄物管理票交付等状況報告書に基づく数値となります。

注 3) 具体的な施策は「8. 2025 年度環境経営目標」をご参照ください

## (2) 環境経営目標達成状況及び今後の対応

取組み項目	2024年度 達成状況		今後の対応
	評価	取組み結果	2025年度
1. 二酸化炭素排出量の削減	○	Scope1、2共に前年度の排出量を下回る。各取組みについては電力・ガソリンの取組みを参照。	Scope1、2共に更なるCO2排出削減を目指す。各取組みについては電力・ガソリンの取組みを参照。
1.1 電力使用量の削減	○	広島・大野ケミカルセンターの低圧電力を再生可能エネルギー電気100%に切り替え。また、2024年4月より太陽光パネル及び蓄電池の設置・計測を開始。	富士五貫島新倉庫建設時に太陽光パネルを設置予定。電力の非化石証書導入を検討し、更なる二酸化炭素の排出量削減をはかる。
1.2 ガソリン、軽油使用量の削減	○	各事業所で営業車の廃止及び削減によりガソリン、軽油使用量が減少。	営業車の使用時にはエコドライブを心掛ける。遠方への出張はモーダルシフトを推奨。
2. コピー使用量の削減	○	PC・FAXの導入推進を行う。データでの保管・共有を推進。	取組み継続
3. 廃棄物排出量の削減 (事業系一般:紙+プラスチック)	○	昨年度は廃棄書類の溶解処分を行ったため今年度は削減。	
4. ケミカルセンター水道使用量の削減 (製造用水以外)	○	広島・大野ケミカルセンターで若干使用量が増加したが、他のケミカルセンターでは減少。	
5. ケミカルセンター排水量の把握		広島・大野ケミカルセンターで若干排水量が増加したが、全体での排水量は減少しました。	
6. グリーン購入の拡大		グリーン調達ガイドラインに則り、環境配慮型製品を使用した。	
7. 化学物質の管理		ケミカルセンターでは、毎月の安全会議実施。本社及びケミカルセンターの関係者で、年1回の全国物流管理者会議を開催し、事故防止に努めた。	
8. 営業部門の環境貢献活動		<ul style="list-style-type: none"> <li>株式会社TBMと当社の連携により、カネヨ石鹸株式会社のクレンザー「カネヨン」の製品ボトルにLIMEX Pelletが採用</li> <li>スタジアムで排出されるゴミの100%リサイクルを目指し、FC大阪様と協働プロジェクトを開始しました。</li> <li>ザスバ群馬様との取組みが「2023 Japan Sports Activation Awards」においてSDGs賞を受賞しました。</li> </ul>	
9. 地域の環境保全活動		各事業所毎に環境活動に参加した。	
10. その他の環境活動		eco検定合格者 4名(2024年度)	

## 6. 中期環境経営目標

	管理項目	単位						基準年度	中期計画 (削減率)				年度目標	前年度比削減率
			2021	2022	2023	2024	2022	0.00%	-0.33%	-0.66%	-1.00%			
			2023	2024	2025	2026	2023	2024	2025	2026	2025			
インプット	電力	kWh	590,958	585,452	606,487	558,114	585,452	585,500	583,500	581,600	579,600	<b>556,250</b>	<b>-0.33%</b>	
	化石燃料	ガソリン+軽油	ℓ	20,209	19,620	16,948	12,888	19,620	19,600	19,600	19,500	19,400	<b>12,845</b>	<b>-0.33%</b>
		重油	ℓ	27,653	25,451	29,684	28,611	25,451	25,500	25,400	25,300	25,200	<b>28,515</b>	<b>-0.33%</b>
		灯油	ℓ	12,279	10,094	5,423	7,441	10,094	10,100	10,100	10,000	10,000	<b>7,416</b>	<b>-0.33%</b>
		LPG	kg	32	26	17	18	26	26	26	26	26	<b>18</b>	<b>-0.33%</b>
	コピー用紙	kg	6,099	5,170	3,720	3,425	5,170	5,200	5,200	5,100	5,100	<b>3,413</b>	<b>-0.33%</b>	
アウトプット	二酸化炭素排出量	Scope1		152,544	140,262	133,318	126,018	140,262	140,300	139,800	139,300	138,900	<b>125,597</b>	<b>-0.33%</b>
		Scope2	kg-CO <sub>2</sub>	247,752	69,426	61,921	55,864	69,426	69,400	69,200	69,000	68,700	<b>55,678</b>	<b>-0.33%</b>
		Scope1+Scope2		400,296	209,688	195,240	181,882	209,688	209,700	209,000	208,300	207,600	<b>181,275</b>	<b>-0.33%</b>
インプット	水使用量 (CCのみ)	上水道(生活水)	m <sup>3</sup>	674	854	889	873	854	前年度実績を越えない				<b>873</b>	<b>0.00%</b>
アウトプット	資源ごみ	紙+プラスチック	t	6,347	10,837	8,606	6,778	10,837					<b>6,778</b>	<b>0.00%</b>

※CC:ケミカルセンター

### 〈中期環境目標 (2023-2026)〉

達成可能な環境経営目標として、全社一律の数値目標を設定した。

- 1) 廃棄物排出量(資源ごみ)及び水使用量(※CCのみ)については、前年度を超えないよう管理する。
- 2) TCFD 提言に基づく開示を念頭に、Scope3 に該当する GHG (温室効果ガス) の排出量の補足にも取り組んでいきます。

○Scope1: 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼、工業プロセス)

…ガソリン、重油、灯油、軽油の使用によるもの

○Scope2: 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

…電気の使用によるもの

※購入電力由来の二酸化炭素排出量の算出には、電気事業者別 調整後排出係数(環境省・経済産業書公表)の各年度公表排出係数を適用。(マーケット基準)

○Scope3: Scope1、Scope2 以外の間接排出

### 〈2025 年度 目標〉

- 環境負荷については、中期計画(削減目標)をすでに達成しているため、新たな目標として、前年度(2024 年度)実績と比較して、全社方針の下、0.33%削減を目標とする。

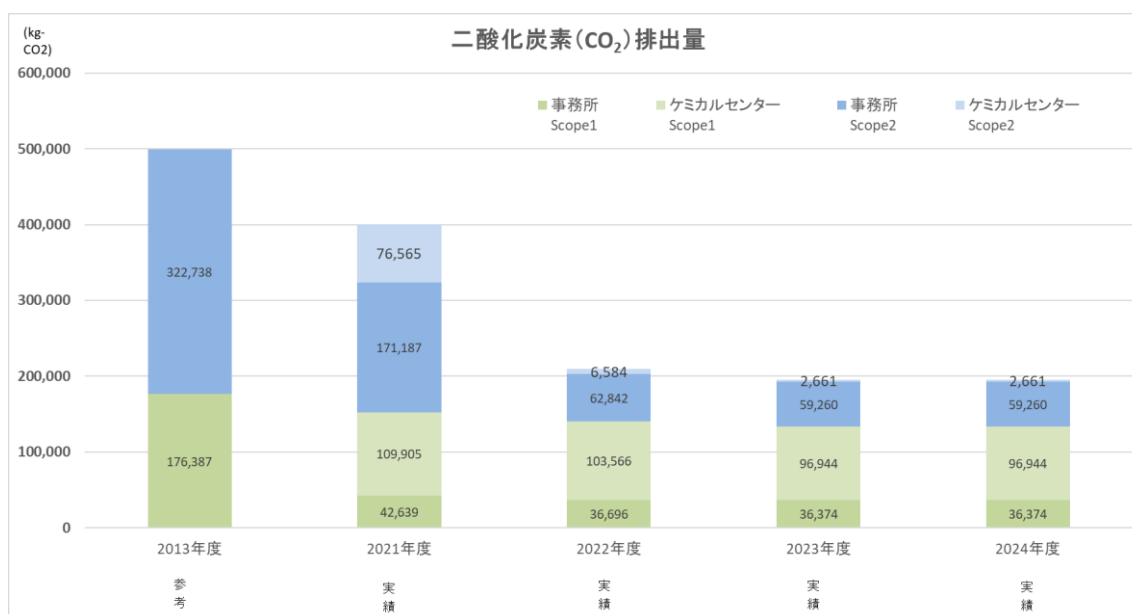
(但し、各部門で検討・設定した数値目標の集計値を最終的な目標とする。)

## 7. 2024年度の環境活動及び過去の実績

### (1) 主な環境負荷への取組結果

#### ① 二酸化炭素排出量 (単位:kg-CO<sub>2</sub>)

実績 \ 年度	2013年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
Scope1	176,387	152,544	140,262	133,318	126,018
Scope2	322,738	247,752	69,426	61,921	55,864
合計	499,125	400,296	209,688	195,240	181,882



※国は2030年度に温室効果ガスを2013年度から46%削減することを目指しており、その基準年度の実績を参考値とした。

※排出量算定に用いる各電力会社の調整後排出係数は、「電気事業者別排出係数(特定排出者の温室効果ガス排出量算定用)」(環境省・経済産業省公表)に基づき、各年度の前年度実績を適用する。

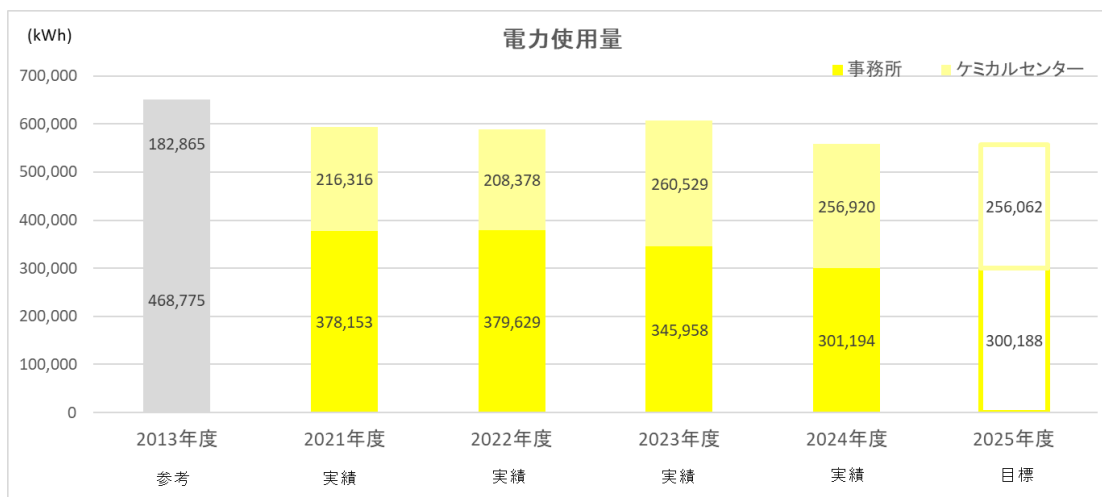
	割合	2024年度実績	対目標増減率
Scope1	: 69.3%	126,018 kg-CO <sub>2</sub>	-5.16%
Scope2	: 30.7%	55,864 kg-CO <sub>2</sub>	-9.48%
合計		181,882 kg-CO <sub>2</sub>	-6.53%

※上記目標値は前年度(2023年度)実績と比較して、0.33%削減

## ② 電力使用量

	割合	実績	対目標増減率
事務所	: 54.0%	301,194 kWh	-12.65%
ケミカルセンター	: 46.0%	256,920 kWh	-1.05%
合計		558,114 kWh	-7.67%

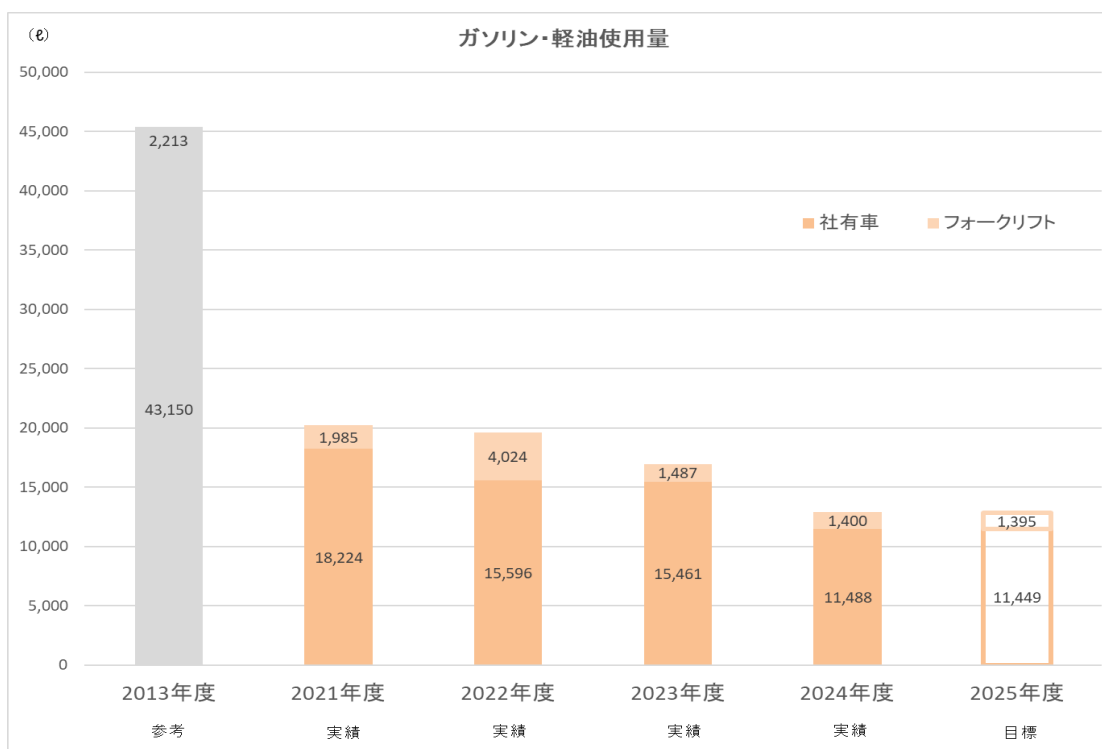
※上記目標値は前年度(2023年度)実績と比較して、0.33%削減



## ③ ガソリン・軽油使用量 (購入量)

	割合	実績	対目標増減率
社用車	: 89.1%	11,488 ㍓	-25.45%
フォークリフト	: 10.9%	1,400 ㍓	-5.45%
合計		12,888 ㍓	-23.70%

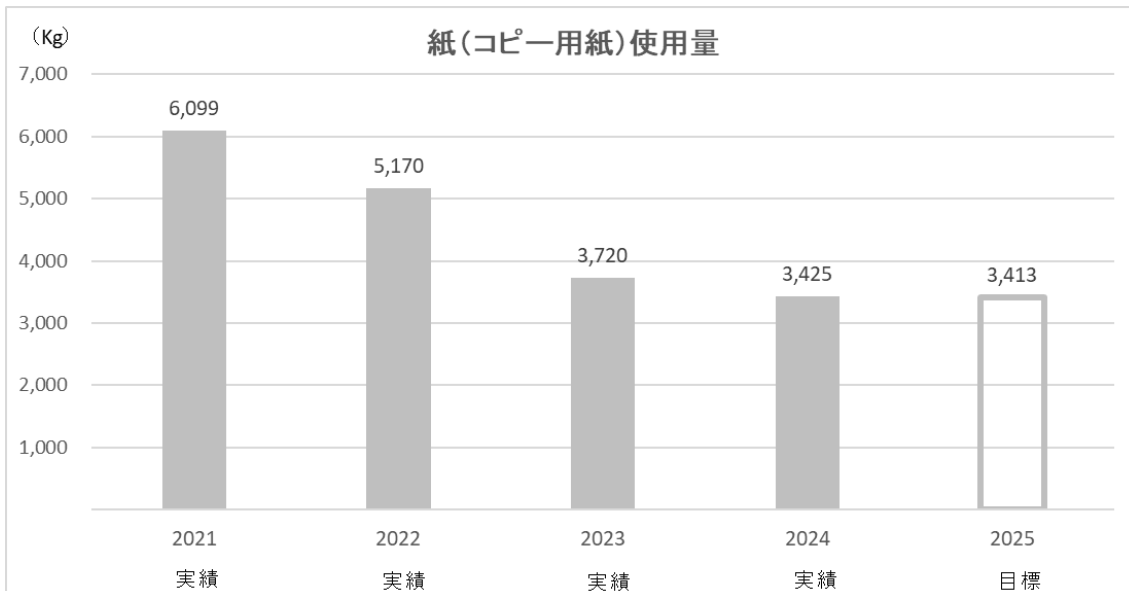
※上記目標値は前年度(2023年度)実績と比較して、0.33%削減



④ 紙使用量 (コピー用紙 購入量)

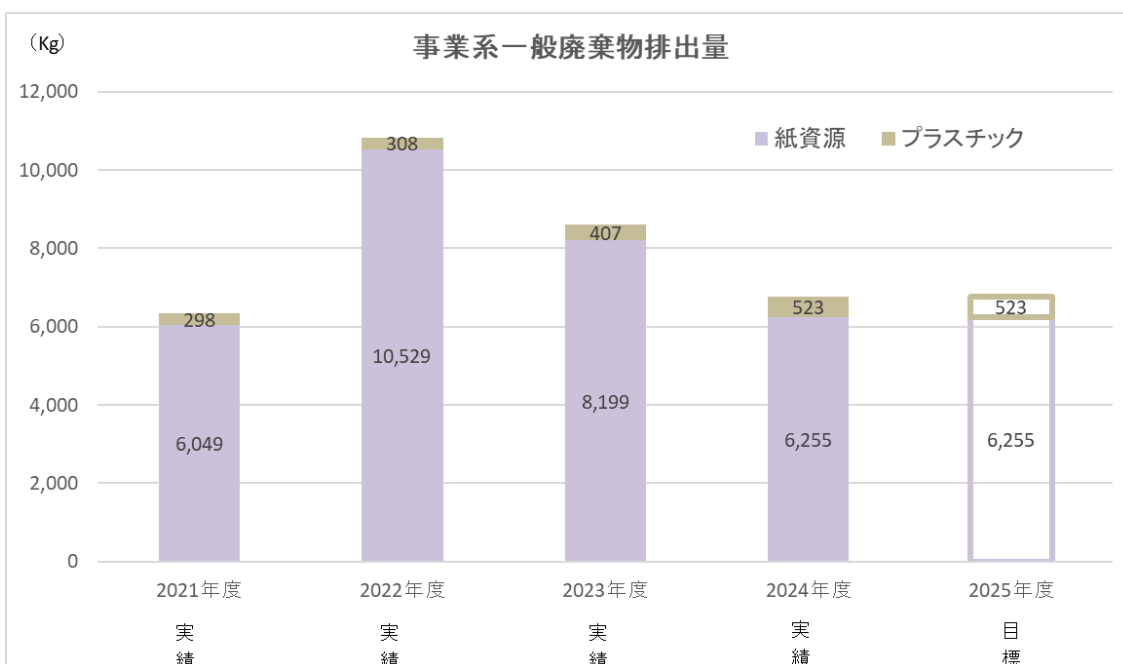
実績	対目標増減率
3,425 kg	-7.63%

※上記目標値は前年度(2023年度)実績と比較して、0.33%削減



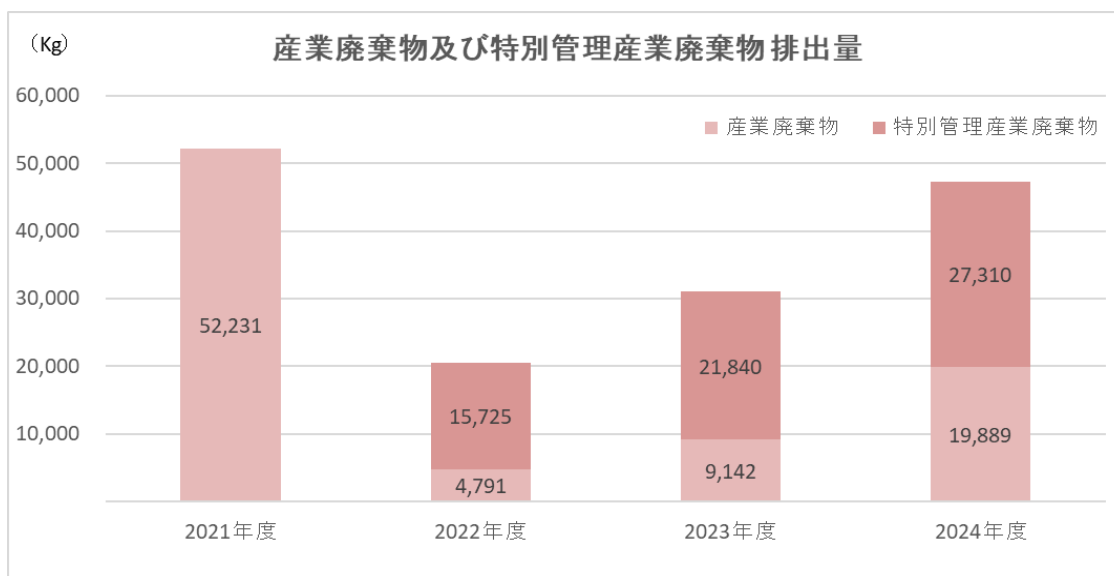
⑤ 事業系一般廃棄物(紙+プラスチック)量

	割合	実績	対目標(前年)増減率
紙	: 92.3%	6,255 kg	-23.71%
プラスチック	: 7.7%	523 kg	+28.46%
合計		6,778 kg	-21.24%



## ⑥ 産業廃棄物排出量

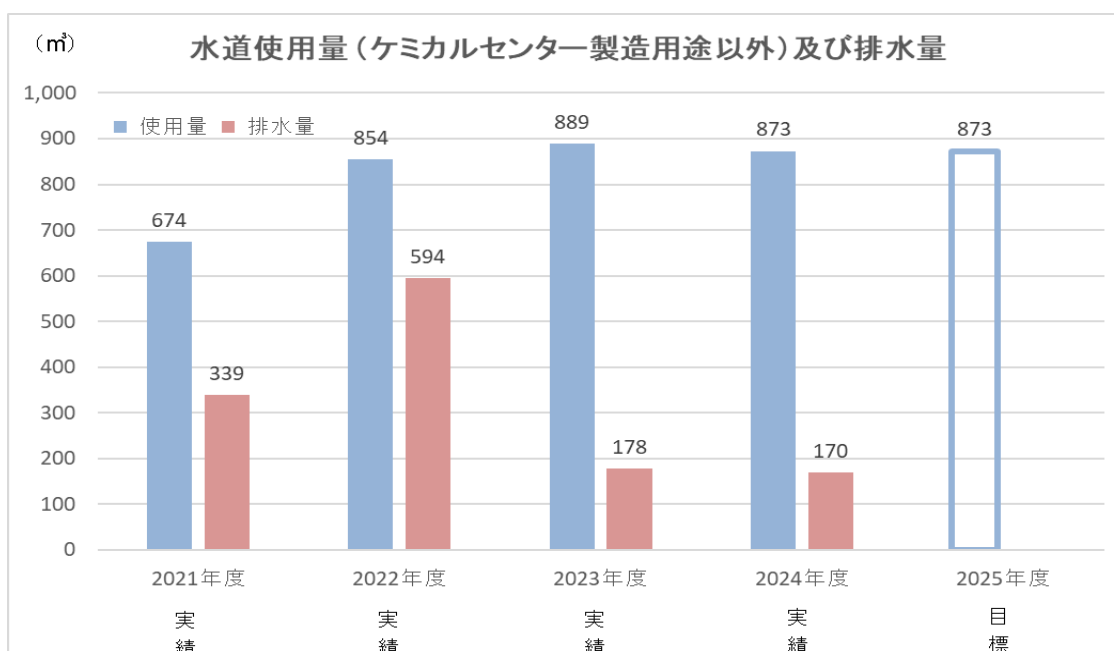
	割合	実績	対目標(前年)増減率
産業廃棄物	: 42.1%	19,889 kg	+117.56%
特別管理産業廃棄物	: 57.9%	27,310 kg	+25.05%
合計		47,199 kg	+52.34%



※特別管理産業廃棄物:爆発性、毒性、感染性その他の人の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物。

## ⑦ 水道使用量 (ケミカルセンター製造用途以外)及び排水量

	実績	対目標(前年)増減率
使用量	: 873 m <sup>3</sup>	-1.80%
排水量	: 170 m <sup>3</sup>	-4.49%



## (2) 二酸化炭素排出量削減への取組み



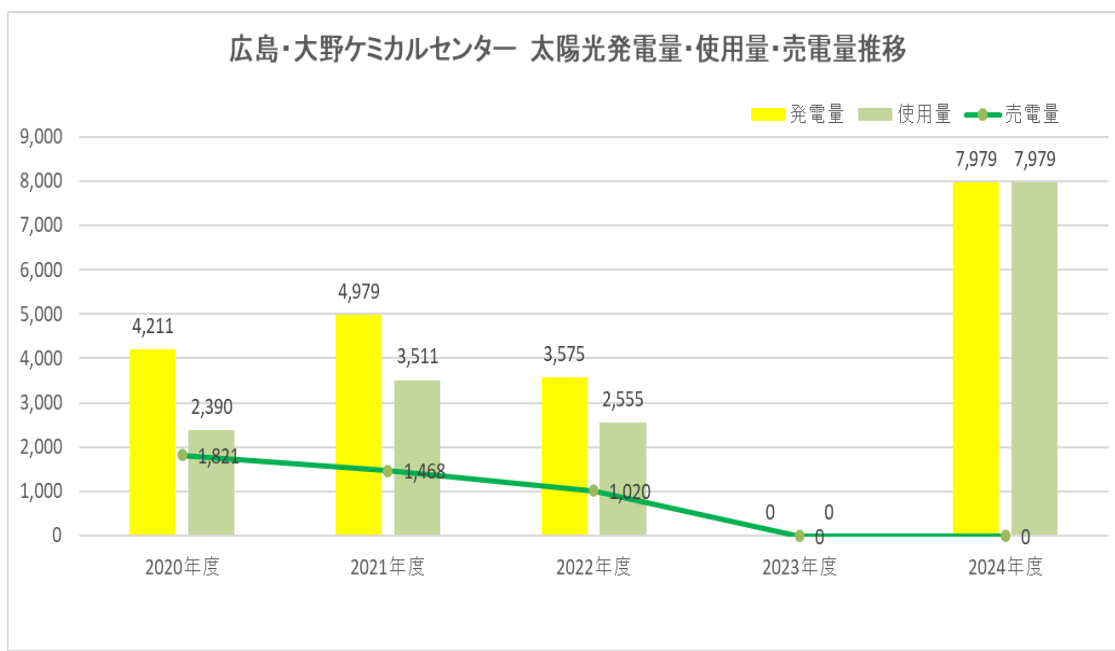
### 広島・大野ケミカルセンターにおける太陽光発電設備の利用

場所: 広島・大野ケミカルセンター (広島県廿日市市)

※大野ケミカルセンター増強工事に伴い 2022 年 12 月に既存の太陽光パネルを撤去。

2023 年 12 月に太陽光発電の能力増強と蓄電池を導入しました。

2024 年 4 月より発電量のデータ取得開始。



### (3) 化学物質の管理

#### ①ケミカルセンター（物流基地）取扱の化学物質

当社は劇物※の船受け可能なケミカルセンター(物流基地)を全国4ヶ所(北海道釧路市、宮城県七ヶ浜町、静岡県富士市、広島県廿日市市)に設置し、物流ネットワークを構築しております。構内や輸送上での事故防止の為、定期的に安全会議、防災訓練、全国物流管理者会議を開催し、安全管理教育の徹底を図っております。

※劇物:「毒物及び劇物取締法」で規制される毒性や腐食性が強い化学物質

釧路ケミカルセンター



仙台・七ヶ浜ケミカルセンター



富士ケミカルセンター



広島・大野ケミカルセンター



#### 【ケミカルセンターで扱う主な化学品】

**【苛性ソーダ】** 無色の強アルカリ性液体。食塩水の電気分解により製造される。  
主な用途:化学繊維、製紙、パルプ、化学薬品、食品工業、石鹼

**【塩酸】** 塩化水素の水溶液。酸性が強く、多くの金属を溶解し、塩化物を作る。  
主な用途:化学薬品、アミノ酸、グルタミン酸ソーダ、酸洗用

**【硫酸】** 無色の酸性の液体。  
主な用途:肥料原料、化学繊維、化学薬品、金属製錬

## ②ケミカルセンターの防災訓練

### i) 仙台・七ヶ浜ケミカルセンター

実施日 : 2024年10月19日(土)

訓練内容 : 漏洩訓練(ローリー車積込中にバルブが破損。積込配管より薬品が噴き出していると想定)



訓練の内容確認



運転手が漏洩を発見、大声で知らせる



漏洩した薬品



側溝に土嚢を設置し流失するのを防ぐ



土嚢を並べ漏洩液を塞ぎ止める



流失した薬液を桶に回収する

ii) 釧路ケミカルセンター

実施日 : 2025年3月4日(火)

訓練内容 : 漏洩訓練(ポンプボイラー室内の配管から、ピンホールによる苛性ソーダ漏洩)



漏洩現場(疑似漏洩 水 3L)



換気



土嚢・立ち入り禁止区域設置



砂に吸収させ回収



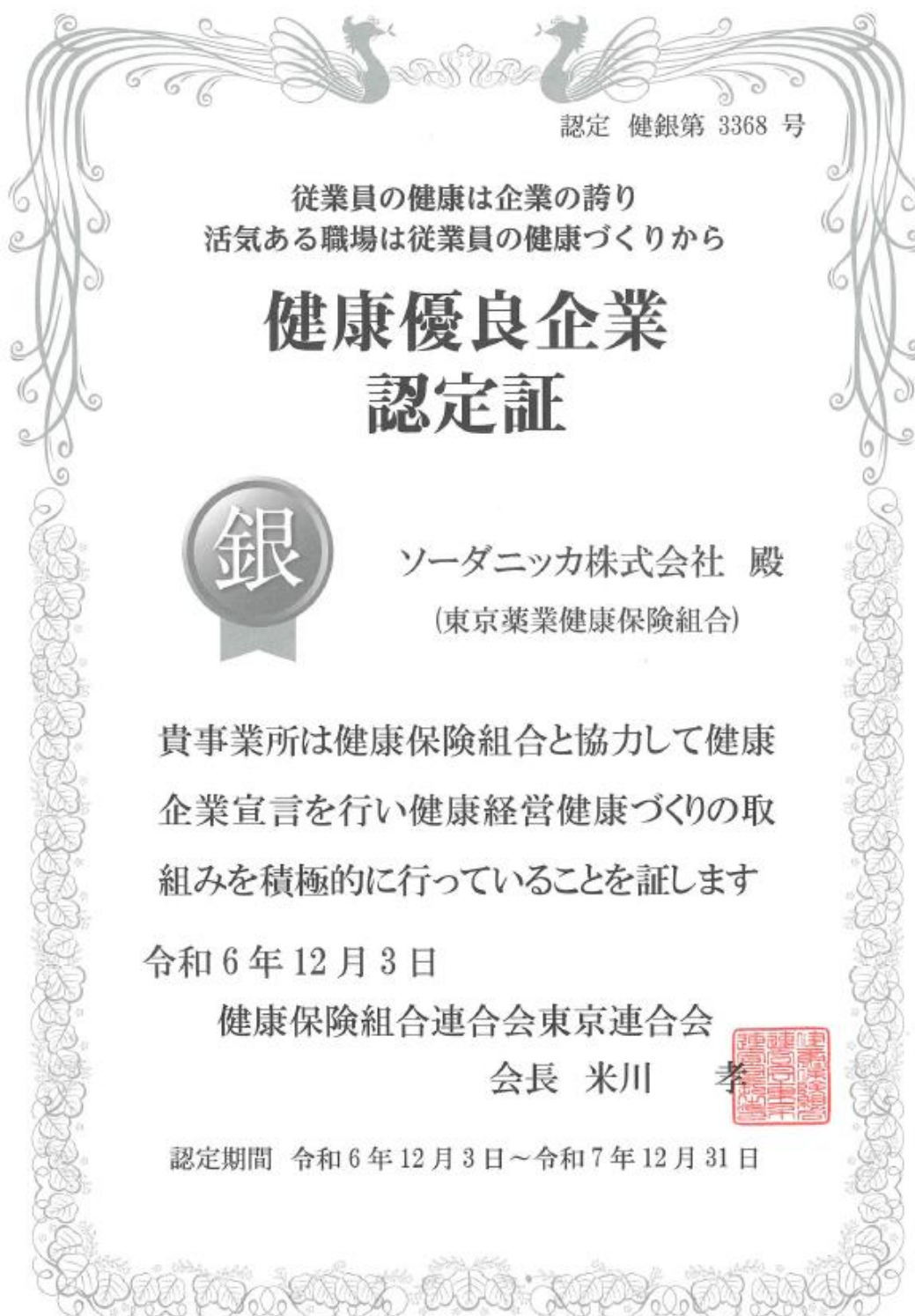
多量の水で洗い流す



PH 確認

(4) 環境貢献活動（営業部門他）

- ① 健康保険組合連合会東京連合会より、健康優良企業の証として「銀の認定」を取得いたしました。



- ② 株式会社 TBM と当社の連携により、カネヨ石鹼株式会社のクレンザー「カネヨン」の製品ボトルに LIMEX Pellet が採用されました。

## Press Release

T B M

2024 年 10 月 18 日  
株式会社 TBM

報道関係者各位

カネヨ石鹼の主力商品「カネヨン」の本体ボトルに  
環境配慮型の「LIMEX Pellet」が採用  
半世紀を超えるロングセラー商品の新たな進化として、環境対応ボトルが実現

株式会社 TBM（本社：東京都千代田区、代表取締役 CEO：山崎敦義、以下 TBM）は、炭酸カルシウムなどの無機物を主原料とする環境配慮型の「LIMEX Pellet（ライメックスペレット）」が、カネヨ石鹼株式会社（本社：東京都荒川区、代表取締役：富田年一、以下カネヨ石鹼）の主力商品の一つであるクレンザー「カネヨン」の製品ボトルに採用されたことをお知らせします。



今回の事例は、TBM が化学製品の専門会社であるソーダニッカ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役：目崎龍二）との連携により、長年愛され続けている「カネヨン」の進化の一環として、LIMEX 製ボトル\*への切り替えを実現しました。

\* LIMEX 製品：LIMEX 素材を使用し、製品全体で炭酸カルシウムなど無機物が 50%以上（重量比）含まれる製品

### ■ 採用の経緯

「カネヨン」は、1933 年からクレンザーを作り続けてきたカネヨ石鹼が、1971 年に日本初の液体クレンザーとして発売した製品で、発売以降、洗浄力と研磨力の相乗効果で落ちにくい汚れを落とす台所の必需品として長年にわたり愛され続けています。2021 年には発売 50 周年を迎え、カネヨ石鹼はその長い歴史を振り返るとともに、「カネヨン」の新たな進化として環境に配慮したボトルの検討を開始しました。

検討を進める中で、TBM が製造する「LIMEX Pellet」に対して、プラスチックの使用量の削減が見込める環境性能と、コストの上昇を抑えられる経済的なメリットを評価いただき、採用に至りました。LIMEX 製ボトルへの切り替えにより、従来のプラスチック製のボトルと比較して、プラスチック使用量を約 31%削減し、温室効果ガスの排出量を約 14%削減\*できる見込みです。

この新しい「カネヨン」は、2024 年 9 月より順次店頭にて販売が開始され、初年度に 100 万本の生産が予定されています。今後は他の商品にも「LIMEX Pellet」の採用が進む見込みです。TBM は今回の取り組みを契機に、国内での LIMEX 製ボトルの採用実績をさらに拡大するとともに、海外市場における「LIMEX Pellet」の普及も積極的に推進してまいります。

\* TBM の推定に基づく概算値であり、保証値ではありません。データ取得状況等に応じて変更の可能性があります。温室効果ガス排出量の計算対象は原材料調達～焼却処分（ボトルのみを対象）。

---

#### ■ LIMEX Pellet の特長

- ・石油由来プラスチック使用量と温室効果ガス排出量の削減  
LIMEX Pellet はポリエチレンと比較し、石油由来プラスチック使用量と、温室効果ガス排出量の削減が見込めます。
- ・多様な形状のボトル容器に既存の成形機で対応  
既存の成形機を活用して、内容物に合わせた単層構造・複層構造のダイレクトブロー成形にも対応可能です。
- ・LIMEX 特有のマットな質感を実現  
炭酸カルシウムを主原料とすることで、LIMEX 特有のマットな質感を実現できます。

※プレスリリース(外部リンク):

[https://tb-m.com/app/uploads/2025/03/20241018\\_kaneyon\\_pressrelease.pdf](https://tb-m.com/app/uploads/2025/03/20241018_kaneyon_pressrelease.pdf)

- ③ 「将来の化学産業を担う人材育成のきっかけづくりをする」をコンセプトとした化学工業日報社による子ども向け化学サイト「きみラボ」に協賛しています。



※きみラボ(外部リンク): <https://kimilab.jp/>

- ④ スタジアムで排出されるゴミの 100%リサイクルを目指し、FC 大阪様と協働プロジェクトを開始しました。

**【FC大阪】 スタジアムでのエコ循環促進のために生分解性を有する素材『PLA』を用いた植物由来容器を試験導入**

FC大阪 2024年5月31日 10時00分



FC大阪ゴールドパートナーであるソーダニッカ株式会社と協働し、6月2日に開催される明治安田 J 3 リーグ 第15節 vs.奈良クラブ での飲食テナント、キッチンカーによる食事提供において、生分解性を有する素材『PLA』を用いた植物由来容器を試験導入いたします。

明治安田 J 3 リーグ所属のプロサッカー клуб FC大阪は国の掲げる2050年脱炭素社会目標達成に向けて、スタジアムで排出されるゴミの100%リサイクル、廃棄物ゼロを目指しパートナー企業様との協働プロジェクトを開始しております。

開幕戦のホームゲーム開催よりスタジアム場内、場外でのゴミの分別率上昇に取り組んでまいりましたが、プロジェクトをより促進させていくために、FC大阪ゴールドパートナーであるソーダニッカ株式会社と協働し、6月2日に開催される明治安田 J 3 リーグ 第15節 vs.奈良クラブ での飲食テナント、キッチンカーによる食事提供において、生分解性を有する素材『PLA』を用いた植物由来容器を試験導入いたします。

この度、試験導入する食品容器は、トウモロコシやサトウキビといった循環性のある植物原料によって 枯渇資源の使用を減らし、石油由来のプラスチックと比較して、カーボンニュートラルの考え方から燃焼時の温室効果ガスである二酸化炭素排出量を控除できるのが特徴です。

そのため、PLAは生産から廃棄まで、環境負荷を減らす素材で、脱炭素社会や、循環型社会の実現に重要な役割を果たします。

※FC 大阪(外部リンク):

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000567.000045155.html>

- ⑤ ザスパ群馬様との取組みが「2023 Japan Sports Activation Awards」において SDGs 賞を受賞しました。



取り組み内容 **スタジアム飲食店の提供容器を堆肥化させる仕組みづくり**

取り組みクラブ **ザスパクサツ群馬**

取り組み企業 **ソーダニッカ株式会社** **リスパック株式会社**

受賞年 **2023**

賞の種類 **SDGs賞**

#### 施策概要

##### 【ザスパエコスタジアムプロジェクト】

取り組みの一つとして、スタジアムから排出されたゴミを「堆肥化」させ、その堆肥をスタジアム内外にて有効活用を目指す取り組みを実施。スタジアムで出店している飲食店の提供容器を、食品残渣が付着した状態で堆肥化可能な廃棄物と共に回収を行い、容器も含めて堆肥化し、スタジアムの芝生の管理や公園の管理といった環境保全活動への使用を目指す。





#### － 目的

- ① 地域社会のハブとなるスポーツクラブとしてカーボンニュートラルの実現、群馬県の活性化に貢献
- ② エコスタジアムと題し、Co2排出を削減し、資源循環型のスタジアムを目指す
- ③ サスパのステークホルダーとの協業によりスタジアムを起点として、群馬県に新たな価値を創出する

#### － 効果

- ・ 今回の取り組みでは、容器の回収率は使用数に対して3割程度となった
- ・ 有人のエコステーションにおいては、スタッフの呼びかけの効果もあり、ほぼ100%分別・回収が実現
- ・ 出店ブースには150名程度のファン・サポーターが来場し、実際に容器を手にとりながら、本取り組みの説明を実施
- ・ 群馬県、前橋市といった行政にも情報共有を随時行った結果、本取り組みが県民のライフスタイルの変革につながるよう9月から新たに創設した「ぐんまプラごみ削減取組店登録制度」の第1号店として、サスパクサツ群馬が登録された

※JAPAN SPORTS ACTIVATION AWARDS(外部リンク):

[https://japan-sports-activation-awards.jp/case/p\\_t6w1\\_po](https://japan-sports-activation-awards.jp/case/p_t6w1_po)

## (5) 社会貢献活動への取組み

### エコキャップ運動

#### ① 提供先

- ・NPO法人エコキャップ推進協会の活動に賛同し、ペットボトルのキャップを回収・提供しております。

エコキャップ運動の目的は、リサイクルの促進、CO<sub>2</sub>の削減、売却益で発展途上国の医療支援に加えて、障がい者・高齢者雇用促進などの4つの目的です。再生プラスチック原料として換金し、医療支援や障がい者支援、子供達への環境教育等、さまざまな社会貢献にあてられます。

#### ② 回収量

- ・2024年度： 10,681 個 (2024年4月～2025年3月)
- ・累積数量： 146,942 個 (2012年7月～2025年3月)

#### ③ 焼却した場合のCO<sub>2</sub>発生量(換算)

- ・2024年度:78.25kg ・累積:1,076.45kg

※ゴミとして焼却した場合、キャップ 1kg で約 3,150gのCO<sub>2</sub>が発生します。

#### ④ 回収場所等

エコキャップ回収ボックス



回収したエコキャップ



## (6) 地域の環境保全活動

### 各事業所の環境保全活動への参加

#### 【本社】

##### ○まちかどクリーンデー（中央区）

本社ではお昼休みの時間帯に「まちかどクリーンデー」（清掃活動）を行っています。  
（4/7、6/10、9/10、11/11、3/10…174～178回）

##### ○はな街道

クリーンウォーク 2024 夏

7月18日

歳末クリーンウォーク 2024

12月19日

2024年6月10日

中央区まちかどクリーンデー



2024年12月19日

はな街道「歳末クリーンウォーク 2024」



#### 【支社・支店・ケミカルセンター】

① 釧路ケミカルセンター 2024年7月2日

海の日 海岸清掃活動



② 四国支店 2024年7月7日

清掃ボランティア



③ 広島・大野ケミカルセンター 2024年7月13日  
大野漁協一斉海浜清掃活動海の日



④ 福岡支店 2024年11月5日  
清掃ボランティア



⑤ 仙台・七ヶ浜ケミカルセンター 2024年11月22日  
近隣他社と合同清掃活動



⑥ 広島支店 2024年12月27日  
清掃ボランティア



⑦ 関西支社 2025年2月6日  
大阪マラソン“クリーンUP”作戦



⑧ 宇部営業所 2025年2月12日  
清掃ボランティア



⑨ 名古屋支店 2025年2月20日  
清掃ボランティア



⑩ 仙台支店 2024年3月24日  
清掃ボランティア



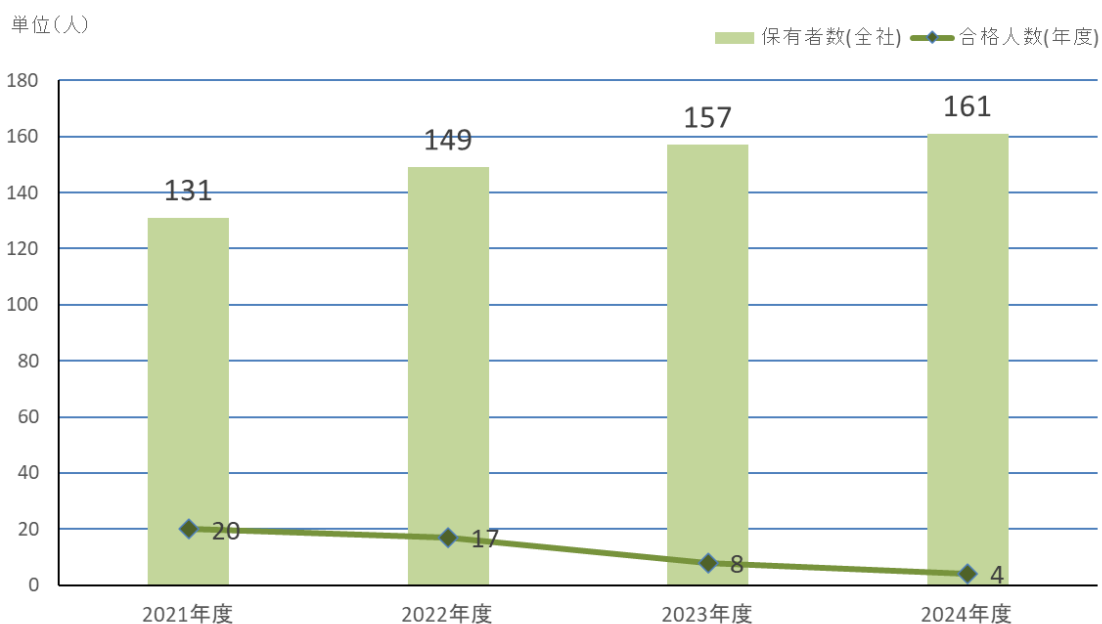
## (7) その他の環境活動（eco 検定®の受検）

当社は、第1回試験（2006年10月15日）より受験、多数の合格者を輩出しています。受験者には、受験料・テキスト代（初回のみ）などの費用補助を行っております。また、2019年度より社内人事昇格試験制度の資格ポイントにeco検定を採用しています。2024年度（第36回、37回）は4名が合格しました。



※eco検定（環境社会検定試験）®は東京商工会議所の登録商標です。

### eco検定（環境社会検定試験）®保有者数・合格者数



## 8. 2025 年度 環境経営目標

### (1) 営業部門の環境貢献活動

当社は、営業活動において環境負荷の少ない商品・技術・サービスを顧客に提供することにより社会に貢献していくため、次の課題に取り組む。尚、課題ごとの数値目標は設定しない。

ア. 化学分野における3R推進のため、化学薬品や樹脂製品などの再利用率、再使用の仕組みを提案し、廃棄物の削減に取り組む。



イ. 太陽光発電を中心とした新エネルギー等への取組みを進める。



ウ. 各営業部門は、それぞれの得意分野において、環境負荷の小さい環境配慮型製品、技術、サービスの提供を積極的に推進する。



エ. 輸送効率化の工夫と提案により、大気汚染等の環境負荷低減を推進する。



### (2) 化学物質の管理



ア. 当社は、化学物質の貯蔵・販売にあたって環境関連法規が求めている安全データシート(SDS)などの資料提供を徹底することにより、取引先での事故やクレームの発生を未然に防止する。

イ. ケミカルセンターにおいては、特に次の点を環境配慮活動として掲げ、具体的に推進する。

- ① 物流管理規程、毒物劇物危害防止規程並びに関連する手順書、保守管理基準により、工業薬品の保管、取扱作業の安全を期する。
- ② ケミカルセンターごとに定める「防災マニュアル」に従って、緊急事態に対応する訓練を定期的実施するとともに、事故の未然防止に努める。

ウ. PRTR法のSDS制度 対象化学物質(第一種、第二種指定化学物質)の年間販売量の把握に努める。

### (3) 二酸化炭素排出量の削減



全事業所より排出する環境負荷については、前年度(2024年度)実績と比較して、全社方針の下、0.33%削減を目標とする。

(但し、各部門で検討・設定した数値目標の集計値を最終的な目標とする。)

省エネ化による二酸化炭素排出量削減目標を達成するために、以下の取組みを引き続き実施していく。

- ① 電力使用量削減
- ② ガソリン使用量削減
- ③ その他の化石燃料(ガスを含む)使用量の把握
- ④ 新エネルギー等の活用

#### (4) 紙使用量削減



全事業所で使用するコピー用紙は、前年度(2024 年度)実績と比較して、全社方針の下、0.33%削減を目標とする。

また、全事業所で使用する用紙は、全量「環境配慮型製品」\*1) とする。

\*1) 環境配慮型製品とは、「グリーン調達ガイドライン」を満たす製品とする。

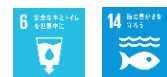
#### (5) 廃棄物削減と分別回収



全事業所から排出される資源ゴミ(紙+プラスチック)は 2024 年度(前年度)実績を上回らないようにする。

- ① 一般ゴミの分別とリサイクル化推進。
- ② 機密書類を含むすべての保管書類をリサイクル資源化する。

#### (6) 節水と排水管理



ア. 節水の取組

- ① 賃貸ビル入居オフィスにおいては、ビル管理会社などと提携して節水への取組みを具体化していく。
- ② 自社保有のオフィスにおいては、節水のための具体的取組みを実施し、前年使用量を上回らないように努める。
- ③ ケミカルセンターにおいては、製造用希釈水と生活水を区分管理し、生活水については 2024 年度(前年度)実績を上回らないよう努める。

イ. 排水管理

ケミカルセンターにおいては、センターごとに定める排水基準により管理し、排水量を把握する。

#### (7) グリーン購入



ア. 印刷物、事務用箋、封筒、名刺などは、環境配慮型製品を使用し、それぞれその旨を明記する。

イ. 「グリーン調達ガイドライン」により、環境にやさしい商品の調達に努める。

#### (8) 地域の環境保全活動への参加



当社は、事業所ごとにそれぞれが所在する地域において行われる、環境保全に関連するボランティア活動などに積極的に参加または支援・協力する。これにより地域社会とともに地球環境保全活動の輪を広げ、社会に貢献していく。

## 9. 環境関連法規等の遵守状況

「環境関連法規」については、「ecoBRAIN」\*1 で法律の改訂内容を確認し「法令遵守状況チェックリスト」を更新し、各部門で遵守状況を確認しました結果、適切でした。

【違反等】 行政当局等からの指導、苦情及び訴訟はありませんでした。

(\*1:「ecoBRAIN」第一法規(株)の「ネット環境法令管理システム」)

### 【主に当社に関連する環境法令集】

<ケミカルセンター関係>	<目的>
[大気汚染防止法]	ばい煙の発生
[水質汚濁防止法]	有害物質の排出、浸透防止、漏洩事故時の報告
[廃棄物処理法]	廃棄物の処理
[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保、化学物質の取扱い
[消防法]	建物防災、危険物の保管管理、消防活動阻害物質管理
[毒物及び劇物取締法]	毒物及び劇物の製造・保管管理、安全輸送
[海洋汚染防止法]	船受入時汚染防止、有害物質貯蔵設備の管理
[悪臭防止法]	薬品の製造・保管業務における臭気の防止
[騒音規制法]	発生する騒音の規制を行うことにより、生活環境を保全
[振動規制法]	振動について規制を行うことにより、生活環境を保全
[海溝型地震対策特措法]	大規模地震発生の予知を前提に事前措置による被害軽減を図る
<b>&lt;営業関係&gt;</b>	
[毒物及び劇物取締法]	毒物及び劇物の輸送・販売、SDS (安全データシート) の交付
[高圧ガス保安法]	高圧ガスの輸送・販売
[消防法]	危険物の輸送
[労働安全衛生法]	SDS (安全データシート) の交付
[化管法] (PRTR 法)	SDS (安全データシート) の交付
[化審法]	新規化学物質の販売
[容器包装リサイクル法]	フィルム、包装容器のリサイクル
<b>&lt;輸入関係&gt;</b>	
[毒物及び劇物取締法]	毒物及び劇物輸送時の安全・標記 和文 SDS (安全データシート) の交付
[化審法]	一般化学物質等の輸入数量の把握・報告
<b>&lt;総務関係&gt;</b>	
[労働安全衛生法]	役職員の健康と安全確保
<b>&lt;全社関係&gt;</b>	
[廃棄物処理法]	廃棄物の処理
[家電リサイクル法]	備品のリサイクル
[小型家電リサイクル法]	〃
[フロン排出抑制法]	事業用のエアコンの点検

## 10. 代表者による全体の評価と見直し (2024 年度)

### 環境経営目標及び環境経営計画の実施状況

二酸化炭素排出量はケミカルセンターの再生可能エネルギー由来の電力導入及び営業車の台数を削減、モーダルシフトを行う事でガソリンの使用量削減により減少した。

紙(コピー用紙)使用量についても PC-FAX の導入により大幅に削減した。  
今後も引き続き、ペーパーレス化等を図っていきたい。

### 2025 年度 実施体制 (社長指示)

#### ①環境負荷の取組

環境負荷の削減については、削減可能な部分は引続き取り組んでください。

#### ②審査員からの指摘・助言事項への対応

審査員からの推奨事項を基にケミカルセンターの安全管理の強化に努めてください。

#### ③実施体制

効率的な運営を心がけてください。

事務局で見直しが必要と考えられるものについては環境経営マニュアル、環境経営レポートに反映させてください。

#### ④環境関連法規の遵守

環境法令については改正の有無等の適宜チェックをお願いします。

また営業部門への管理指導の徹底をお願いします。

#### ⑤内部環境監査

監査強化に努めてください。

## 11. エコアクション 21 の取組みのあゆみ

当社が 2006 年 3 月にエコアクション 21 に全社認証登録されてから 19 年目を迎えました。

2002 年 5 月 EMS 準備委員会発足

2003 年 8 月 パイロット事業に本社参加

2004 年 10 月 本社 認証取得

2006 年 1 月 第九回「環境コミュニケーション大賞」優秀賞 受賞

2006 年 3 月 全社統合 認証取得 [認証・登録番号 0000666]

以降、中間審査(奇数年)、更新審査(偶数年)を交互に受審

2010 年 3 月 第十三回「環境コミュニケーション大賞」優秀賞 受賞

2024 年 3 月 更新審査の受審

2024 年 7 月 認証・登録証交付(有効期間:2024/3/28-2026/3/27)

## 12. 表紙の写真について

小説「野菊の墓」で有名な「矢切の渡し」近くの堤防で撮った一枚です。

矢切の渡しは、江戸時代初期から続く、柴又と対岸の千葉県を結ぶ渡し船です。情緒ある木製の手漕ぎ舟や、ヒバリ、ユリカモメの声などは「残したい日本の音風景 100 選」に選定されており、現在でも乗船することができます。

この写真は千葉県側で撮ったものですが、辺りは水田やキャベツ畑が広がる広大な農地であり、松戸市内とは思えない自然豊かな環境が残っています。

### 改訂履歴

版数	発行日	改訂内容
第一版	2025 年 8 月 1 日	初版発行

# 社会と化学のコーディネーター



 ソーダニッカ



詳しくはこちら

このレポートはGPNエコ商品ねっとに掲載されている紙を使用し、作成しています。  
画像及び写真は全て無断転用不可。

ソーダニッカ EMS 委員会事務局